

ジュニア
ガイド

特別展
とくべつてん

このジュニアガイドは特別展
「書聖 王羲之」の鑑賞の手引き
として、小学校高学年から
高校生までを対象に
作成しました。

書聖
王羲之



Master Calligrapher
Wang Xizhi

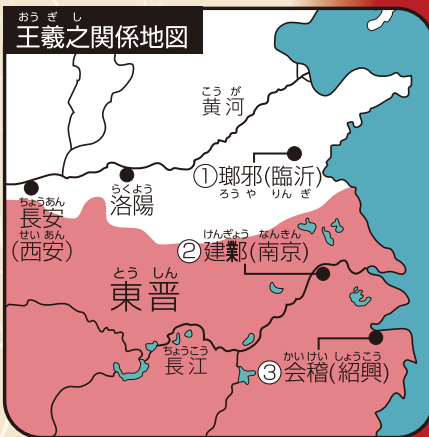
一十一人詩兩篇成
一十五人詩一篇成
一十六人詩不成各
飲酒三觥



王羲之をたずねて

「王羲之」、「蘭亭序」…学校での習字や、書道教室で、一度は見たたり聞いたりするはず。王羲之って、どんな人だったんでしょ？その人物と生涯について、解説します。

王羲之のプロフィール



- 名前** 姓は「王」、名は「羲之」。
- 生没年** 右軍將軍となったことから、「王右軍」とも呼ばれました。いくつかの説がありますが、西暦303年～361年や307年～365年というのが有力です。
- 家系** 中国・東晋の貴族。東晋の国が誕生するとき、従伯父(祖父の兄弟の息子)の王導と王敦が活躍したため、王一族は皇帝と同じ権力を持っていました。
- 経歴** 幼いころから書のほかに仏教・儒教・道教や歴史・文学などをよく学び、地方の長官や將軍などをつとめた秀才でした。
- 性質** 自然体で飾らない性格。自分の意見をしっかりと持ち、雄弁。しばしば体調をくずし、いろいろな漢方薬を飲んでいたようです。

小さいころは、とても引っこみじあん。父とは早くに別れて母親と兄に育てられ、従伯父の王導・王敦にもかわいがられて自信をとりもどし、人前でも堂々と話せるようになりました。

従伯父の王敦が反乱をおこしたため、20代後半だった王羲之は、従伯父たちから離れ、当時の権力者たちに仕えるようになります。このころ、その権力者のひとり、郗鑒は娘のおむこさんを探して、王家に使いを出しました。王家の若者たちが、ぎどつてすましている中で、王羲之だけはお腹を丸出して寝ころび、ムシヤムシヤ食べていました。それを聞いた郗鑒は、「それはたのしい！」と、王羲之を娘のむこに決め、結婚したのです。

王羲之は会稽という地方の長官だった時、「蘭亭」という場所で、地元の名な人々を招いて宴会を開きました。水の流れのまわりに人々が集まり、酒を飲み、詩をよむ、「曲水の宴」です。酒によい、いい気分になった王羲之は、その会でよまれた詩の詩集のはじめに文章(序文)を書きました。これが有名な「蘭亭序」です。



太安2年(303)	王羲之、瑯邪に生まれる(307年という説も)	地図①
永嘉元年(307)	王一族、建邺に移る	地図②
建武元年(317)	この前年に西晋が滅び、東晋が建国される	
永昌元年(322)	従伯父の王敦が反乱をおこす	
大寧2年(324)	従伯父の王敦が病死	
咸和5年(330)頃	王羲之結婚する 作品①	
建元2年(344)頃	王羲之に男の子(王献之)が生まれる	
永和7年(351)	会稽内史(会稽郡の長官・右軍將軍となる	
永和9年(353)	会稽の蘭亭で「曲水の宴」をひらく。 地図③	
永和11年(355)	このとき「蘭亭序」を書く 作品②(裏面)	
升平5年(361)	病氣のため、辞職する	
元熙2年(420)	このころ「喪乱帖」を書く 作品③	
	王羲之、没する(365年という説も)	
	東晋の国が滅びる	

さまざまな模写の方法



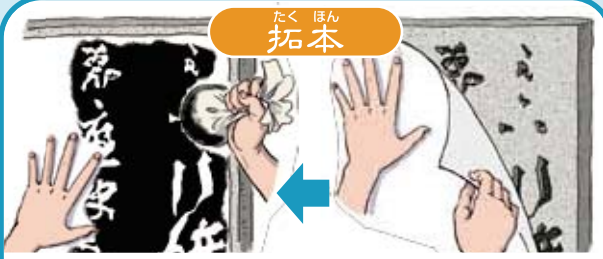
臨模

直筆の書を手本に、正確に写して書く



双鉤填墨

書の上に紙を置き、輪郭に沿って線を写し、ぬりつぶす



拓本

正確に字がほられた石の板から、紙に墨で字を写し取る

時空をこえて伝わる王羲之の書

王羲之は書を芸術へと高めた最初の人であり、そのため「書聖」つまり書の神様としてあがめられ、その書は今なお規範(お手本)とされています。実は王羲之が生きていた時の直筆の作品は、1点も残っていません。しかし古くからその書は愛好され、正確な模写が数多く作られて、今に伝えられているのです。

王羲之の書にまつわるくんのエピソード

その 扇の話

あるとき、おばあさんが扇を売っていました。あんまり売れません。王羲之は、扇に筆で、五つの文字を書きました。おばあさんはおこりましたが、「これは王右軍(王羲之の別名)の書です、といてごらん。高くても売れますよ」とすると扇はとぶように売れたのです。彼の書は、生きているときから有名だった！



その ガチョウの話

道教のお坊さんが、立派なガチョウをかつていると聞いた王羲之は、さっそく見に行きました。「そのガチョウを、ぜひゆずってください」とするとお坊さんは言いました。「お経を書いてくれるならゆずってあげましょう」王羲之は喜んで、「道德経」というお経を書き、かわりに、かごいっぱい(100)のガチョウをもらって帰りました。王羲之はガチョウが大好きだったのです！



作品③『喪乱帖』
宮内庁三の丸尚蔵館

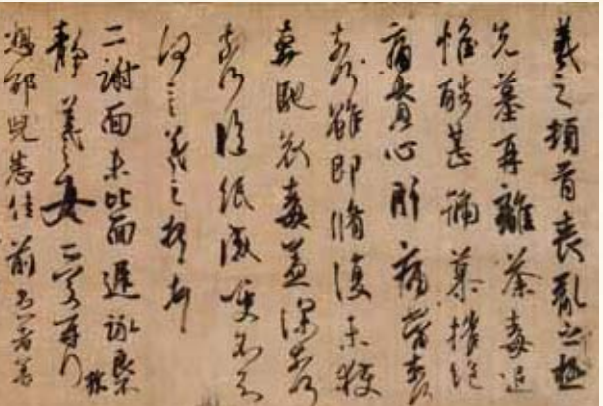


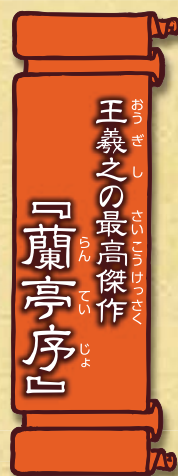
Princeton University Art Museum / Art Resource, NY

作品①『行穰帖』
プリンストン大学付属美術館

王羲之が書いてから約300年後の唐時代に模写されたもの。王羲之の若いころの書とされています。左の『喪乱帖』より、字が若々しい？

やはり唐時代に、とても正確に模写されたもの。もとは王羲之が54歳ころに書いたもので、年をとって完成された筆あとを伝えています。



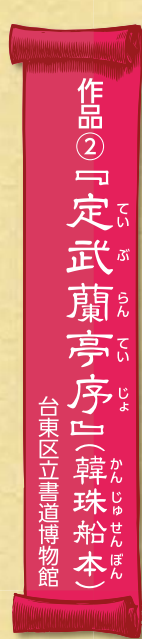


『蘭亭序』は、王羲之がしるした書の中でも、最も有名なものといつてよいでしょう。彼自身も、これが自分の最高傑作だと言っていたようです。

王羲之の時代から約300年後の唐時代、皇帝の太宗は、各地から王羲之の書を集め、正確な模写を作らせました。太宗は、王羲之直筆の『蘭亭序』を、自分のお墓に

持って行ってしまったため、『蘭亭序』は模写として伝わってきたのです。

『蘭亭序』は、いつの時代にも重要な作品、書のお手本とされ、模写をさらに模写したり、拓本(文字を彫りこんだ石の板に紙をあて、墨をすりこんで字を写し取る方法が行われてきました。下の作品は、中国・宋時代(10世紀)の拓本です。



平成25年
(2013)

そして王羲之の書は、長い歴史をたどり、今へと受けつがれ、愛されているのです。

日中国交正常化40周年

特別展「書聖 王羲之」

WANG XIZHI: Master Calligrapher

会 期 2013年1月22日(火)～3月3日(日)

開館時間 9:30～17:00 ※3月1日(金)は20:00まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日 ※ただし、2月11日(月・祝)は開館。翌12日(火)は休館

主 催 東京国立博物館、毎日新聞社、**NHK、NHKプロモーション**

特別協力 朝日新聞社

後 援 外務省

特別協賛 大和ハウス工業

協 賛 あいおいニッセイ同和損保、トヨタ自動車、日本写真印刷、ゆうちょ銀行

協 力 内田洋行、全日本空輸、東京中国文化センター、二松学舎大学、毎日書道会

観覧料	当日	前売	団体
一 般	1,500円	1,300円	1,200円
大 学 生	1,200円	1,000円	900円
高 校 生	900円	700円	600円

※中学生以下は無料

※団体は20名以上
※障がい者とその介護者1名は無料です。入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。

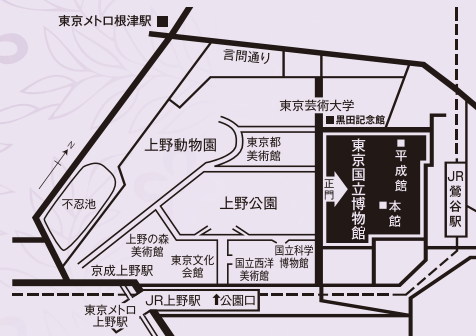
東京国立博物館 平成館 Tokyo National Museum Heiseikan (Ueno Park)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ウェブサイト <http://www.tnm.jp/> 交通のご案内

◎JR上野駅公園口、鶯谷駅南口より徒歩10分

◎東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分



お問合せ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

展覧会公式ホームページ <http://o-gishi.jp/>

●関連特集番組

「書聖・王羲之の革命(仮)」

NHK総合テレビで放送予定

●NHK美術番組のご紹介

日曜美術館



Eテレ 毎週日曜日 午前9時～10時

(再) 翌週日曜日 午後8時～9時

※アートシーンのみあさ放送と同一